

1 これまでの経過

(1) 施設整備の経緯

平成9年に旧ジャスコが撤退して以降、当該跡地については、2度にわたる民間事業者による開発事業が実現に至らず、未利用地となっていました。

(酒田駅周辺地区グランドデザイン(平成26年度))

そうした現状を脱却するべく、平成26年度に、市が主体となって、学識経験者、市民代表等からなる「酒田駅周辺地区グランドデザイン検討懇談会」等から意見を伺いながら、酒田駅周辺地区(約9.0ha)の将来のあるべき姿を再整理し、整備に関する方針を明らかにするため、「酒田駅周辺地区グランドデザイン」を策定しました。

当該地区は、中心市街地の他地区と同様に人口の減少と高齢化が進むとともに、空き地や空き家が目立つようになってきています。また、建物の老朽化も進んでおり、緊急車両の通行が難しい細街路も多いことから、災害に対する脆弱性も懸念される状況になっています。

さらには、駅周辺の交通結節機能の分散(駅とバスターミナル)や駅前広場における各機能の充実等の課題を抱えており、公共交通機関の利便性が高い駅前の魅力を生かすことができていません。

このような中、当該地区の求められる機能として、「玄関口機能」「交通結節機能」「市民にぎわい交流機能」「まちなか居住機能」の4つを掲げ、目指すまちづくりの基本理念を「観光起点+市民の憩いの場」と定め、当該地区を起点にまち全体が有機的につながり、来街者、市民がともに回遊を生み出し、それがまちの魅力と利便性を向上させ、「ひと」で賑わう空間を形成していくと位置付けました。

旧ジャスコ跡地と隣接街区の整備の方針としては、「土地活用は空洞化の解消という意味において喫緊の課題であり、市民からの有効活用が強く求められている。また、隣接する街区にある老朽化した高層建築物等を含めた整備の検討も必要なエリアである」との評価を行い、「市民生活の利便を高め、にぎわいと交流を向上させる機能を担う「市民にぎわい交流機能」を中心に短期整備をする」としています。

また、事業実施にあたっては、官民複合施設を想定していくこととしました。

酒田駅周辺地区のまちづくりの基本理念 「観光起点+市民の憩いの場」

【図1】酒田駅周辺地区（酒田駅周辺地区グランドデザインでの位置付け：9.0ha）



（対話型市場調査、整備計画方針（平成27年度））

これを基に平成27年度には整備事業への参加意欲のある民間企業を対象に、実現可能な事業化プランを求め、意見交換を行う対話型市場調査を実施しました。そして、当該調査結果等を踏まえ、本市における行政課題、財政負担、市民の利便性向上、持続可能なまちづくりなど多方面にわたる検討を行い、ライブラリーセンターを中核とした公共施設（酒田コミュニケーションポート（仮称）（以下単に「酒田コミュニケーションポート」という。））の導入を決定し、その他整備区域、事業手法及び公共施設購入基準額を盛り込んだ「酒田駅前整備計画方針」（以下「整備計画方針」という。）を定めております。

（事業者募集（平成27～28年度））

この整備計画方針に基づき、第一種市街地再開発事業を基本として、事業の実施主体となる民間事業者を募集し、提案内容の公開プレゼンテーションや市民アンケート等を踏まえ、平成28年7月に事業予定者を西松建設株式会社に選定しています。

今後、市、事業予定者及び地権者での基本協定締結や都市計画決定、設計等を経て平成32年度の工事完成を目指していくこととなっております。

(2) 酒田コミュニケーションポートの整備の方針

整備計画方針において、酒田コミュニケーションポートの施設コンセプトとして、次のとおりとしています。

**人と人（情報、まち）を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、
新しい風・パワーを生み続けるハブ拠点**

導入する機能の整備目的と整備内容は、次のとおりとなっています。

機能	整備目的	整備内容
ライブラリーセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を築く人財育成、交流支援機能の充実 ・多様な読書スタイルを提供し、多様なニーズへの対応<学びの場、子育ての場、交流の場、情報発信の場> 	<ul style="list-style-type: none"> ・床面積 3,000 ㎡を基本として整備 ・カフェや憩いの場等として、別途 200 ㎡を基本として整備 ・蔵書数は、30 万冊（開架 20 万冊、閉架 10 万冊）を参考規模として想定
観光情報センター	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前の観光案内、情報発信機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・100 ㎡を基本として整備
広場	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前にはイベント等に活用できる空間がない ・景観形成や憩いの場として 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,000 ㎡を基本として整備
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設利用者及び駅周辺への不特定多数利用者用 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備駐車台数のうち 200 台
バスベイ	<ul style="list-style-type: none"> ・交通結節点機能強化のため、駅前バス停を集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧ジャスコ跡地の北側（県道沿い）に整備

なお、ライブラリーセンターは、現中央図書館機能も引き継ぐものとし、また観光情報センターは、現駅舎内にある観光案内所を移転・強化するものであります。

○酒田コミュニケーションポート（名称の意味）

人と人（情報、まち）を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、新しい風・パワーを生み続けるハブ拠点として活性化を目指したい。ポートには、湊町酒田のイメージと、その場所から街に人々が回遊する（こぎ出す）イメージを込めている。

○ライブラリーセンター（名称の意味）

現在の中央図書館のサービス機能やネットワークを引き継ぎつつ、多様なニーズ等に対応する新しいスタイルの図書館機能づくりを進めるため、新しい施設イメージとして名称をライブラリーセンターとしている。